

東奥日報
2026年(令和8年)9月15日(火曜日) (23)

「イエルプ音」全国が注目



2023年にイエルプ音を全国で初めて導入した八戸市立市民病院のドクターカー

八戸・ドクターカー採用3年

「ヒュンヒュン」ブランド化

八戸市立市民病院が八戸圏域8市町村で運行するドクターカーのサイレン音として全国で初めて「イエルプ音」を採用してから3年。今明秀・同病院事業管理者は14日、「全国唯一のイエルプ音ドクターカー」として注目され、医師、看護師、救急救命士が市民病院に集まってきている状況。イエルプ音は(同院が)これまでに進めてきたブランド化の一つになっている」との見方を示した。(尾坂拓哉)

市議会決算特別委員会で中村益則議員(公明)の質問に答えた。

ドクターカーは医師らが救急現場へ出動する際に使用する緊急自動車。同院ではスポーツタイプ多目的車(SUV)などの一般車両をベースに赤色灯やサイレンを装備しているが、救急車と比べて車高が低く、他車の運転手から見えずらい。事故リスクを減らすと、同院は八戸工業大との共同研究を進め、従来のサイレン音「ピーポー音」より聞き取りやすいとされる「ヒュンヒュン」というイエルプ音への変更を決めた。

同院によると、2023年9月の導入以降、ドクターカーの事故はなく、市民

から音に関する苦情も寄せられていない。25年度のドクターカー出動件数は1567件。今管理者は「イエルプ音は聞こえやすさや、救急車

のサイレン音と区別できることに加え、乗員の救急医、看護師、救急救命士のモチベーションにもつながっている」とした。現在は他県でも採用されるようになった。導入前には相談を受け、助言を送っていたとし「これからもイエルプ音のドクターカーをリードしていきたい」と話した。

※「この画像は該当ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです」